



圭陵会代議員会・総会ご挨拶

岩手医科大学 学長 祖父江 憲 治

圭陵会の先生方におかれましては、益々御清祥に御活躍のこととお慶び申し上げます。併せて、先生方には本学の運営に多大な御理解と御支援を賜っておりますことに、深く感謝致しております。

猛威を振っておりました新型コロナウイルス感染症の8波がようやく沈静化傾向となり、政府も感染法上の取り扱いを2類から5類に変更しました。しかしウイルス自体に変更がある訳ではなく、最近の傾向を見ておきますと、病原性は若干弱くなりつつあるものの、感染力は以前にも増して強いようにも思われます。本学では従来と変わらぬ警戒をおこたらず、大学病院における拡大感染防止、学生・教職員・医療スタッフの感染防止に注力してまいります。先生方におかれましても、引き続き御留意賜りますようお願い申し上げます。

次に、本学の近況につきまして報告致します。まず国家試験ですが、医学部は昨年、一昨年と比してあと一歩という所でした。歯学部と薬学部の現役生は好成績でしたが、既卒生の成績が振るいませんでした。これについては、両学部で対策を行っています。看護学部は今年も100%合格でした。このように、各学部で学年により結果に多少の優劣はありましたが、概ね一定レベルの成果であったと考えています。これは学生諸君の大変な努力によるものですが、同時に圭陵会の先生方の御理解と熱い御支援によるもので、教職員一同改めて感謝申し上げます。歯学部と薬学部では入学者の定員割れを起こしています。歯学部につきましては未だ政府の歯科行政に逆風が吹いていることと、両学部特有の問題もあり、各学部での意識改革を含め

た大学の体質改善を行い、魅力ある学部造りさらに大学造りと教育体制造りを目指してまいります。

矢巾附属病院と内丸メディカルセンター（歯科医療センターを含む）ではコロナ禍で病棟閉鎖や外来一時停止などの事態が発生し、大幅な医療収入減を来とし、また前述の歯学・薬学部入学生減による学納金収入減により、財政上非常に厳しい状況となりました。このため、内丸地区の歯学部と歯科医療センターの循環器センターへの移転計画の本格検討を本年度スタートする予定を、1、2年延期することとしました。財政面での回復基調を睨みながら、早期に内丸地区再開発へ向けた検討に入る予定です。

医学部における卒後研修医は、ここ数年来減少傾向にあります。その一方で、専門研修医（専攻医）は年々増加し、現在では総数で200人を越える程になりました。さらに多くの専門研修医をリクルートすべく努力してまいります。歯科研修生も増加傾向にあります。若い医師・歯科医師の、岩手県を始め北東北医療圏での活躍を期待しております。薬学部卒業生は、本学附属病院をはじめ県内病院とドラッグストアに就職しています。看護師は半数近くが本学附属病院に、残りの大半は岩手県から東北の病院・医療施設で活躍しています。医療系総合大学として4学部学生教育から卒後教育に至るまで、本学の特性を生かし、また学生個々の個性を生かした教育と人造りを行ってまいります。

圭陵会の先生方におかれましては、従前以上に熱い御指導・御声援を頂きますと同時に、先生方の御健康につきましても御自愛賜りますようお願い申し上げます。